

2009-6-30
朝日新聞 夕刊

人生の贈りもの

著者と議論する読書が発想を生む

「失敗学」提唱者 畑村洋太郎(68)

2

「失敗学」は失敗を生かして創造につなげる斬新な分野です。読書法も独自のだそうですね

本を読むとき、著者とダイアログをしています。重要なところに赤線を引き、コメントを書き込む。1度読むと、次に赤線を引いたところだけを読み直す。読み終える時間は20分の1ですみ、1回目より深い読み方ができます。それを2回繰り返して、全部で3回は読む。最後は著者との議論が終わり、考え尽くしている。1冊にもすく時間がかかりませんが、著者もほくも及ばなかった考えにたどりつくことがある。読書

は知識を身につけるといふ面もありますが、ほくは、どれだけのことを考えるかだと思っています。

「失敗学」提唱者 畑村洋太郎(68)

頭の中に、うまく像ができあがるように話すことにしています。落語家と同じ。聞く人がどうイメージを組み立てるか、要素を時系列で並べ、どう話せばいいか考える。間も大事ですね。経験や考えをもとにしながら、聞き手にイメージをつくつてもらう時間なんです。バンバンしゃべるのはダメ。おいしい料理は調理して盛り付け、出される順番がある。それと同じで形があり、色があり、配置があると考えればよい。おいしさを考えず、一気に食べればよいなら、ミキサーにかければよい。

会社更生法の適用を受けて倒産した吉野家の立て直しについて、彼から話を聞いている最中の2003年12月に、アメリカで牛海綿状脳症(BSE)の疑いのある牛がみつかったというニュースが流れた。アメリカからの牛肉に99%まで頼っていた

安部さんの著作を読み込み、話を聞いていたから出来た作業です。最後の図には、顧客から支持されてきた理由に、「安い」「早い」とともに「おいしい」があり、「吉野家の牛丼を食べたい」ことに目を向ける」というものがあった。

顧客が覚えている「おいしい」という記憶を生かせないかと安部さんに提案した。吉野家は1年後、牛丼を1日だけ復活させました。店の前に長蛇の列ができた。吉野家の大きな味方は、客の「味の記憶」なんです。

——子どものころは算数が得意だったとか

「失敗学」は失敗を生かして創造につなげる斬新な分野です。読書法も独自のだそうですね

「失敗学」は失敗を生かして創造につなげる斬新な分野です。読書法も独自のだそうですね

「失敗学」は失敗を生かして創造につなげる斬新な分野です。読書法も独自のだそうですね

「失敗学」は失敗を生かして創造につなげる斬新な分野です。読書法も独自のだそうですね



中学生のころは具体的なイメージを描くことが得意で、図工、音楽、数学が好きだった

「失敗学」は失敗を生かして創造につなげる斬新な分野です。読書法も独自のだそうですね

「失敗学」は失敗を生かして創造につなげる斬新な分野です。読書法も独自のだそうですね